

文化財だより 第114号

磐田市教育委員会教育部文化財課 平成26年9月1日発行

- 磐田の建造物3件が
国の登録有形文化財に加わります・・・P1～2
- 民間信仰(3)馬頭観音・・・P3
- 見付天神裸祭の記録映像が見られます・・・P4
- コラム 『瓜』 大村至広・・・P4

磐田の建造物3件が国の登録有形文化財に加わります!!

※国の登録有形文化財(建造物)とは、50年を経過した建造物のうち、歴史的景観やその時代の特色、再現が難しい技術などを残している文化財を、国の文化審議会の審議・答申を経て、有形文化財に登録されたものです。

今回新たに登録されることになったのは、見付地区にある「^{げんみょうじきょうぞう}玄妙寺経蔵」及び「^{げんみょうじもんちゅう}玄妙寺門柱及び塀」、前野地区にある「^{ほづみけしゅうたくながやもん}穂積家住宅長屋門」です。

今回の登録で、市内における国の登録有形文化財は、合計で8箇所(17件)となり、磐田の歴史的建造物として、また、地域の資産として大切に次世代へ残していきます。



玄妙寺経蔵



1. 玄妙寺経蔵

玄妙寺は日蓮宗の本山であり、南北朝時代の元中2年(1385)に建立されたといわれています。

玄妙寺経蔵は、寺の記録によると昭和9年に建てられ、当時としては大変珍しいRC(鉄筋コンクリート)構造の建物で、寺の経典を収めるために造られました。外壁は石造風に見せるための技法が施されています。RC構造と共に鉄扉を

備える等、耐火性を重視した昭和初期の鉄筋コンクリート造経蔵の好例として、国の登録有形文化財建造物に登録されることになりました。

2. 玄妙寺門柱及び塀

建設年代は不詳ですが、当時を知る方の証言などから、大正～昭和初期だと推定されます。

見付本通りから北に入る「^{げんみょうしょうじ}玄妙小路」に面し、南端に門柱が1本建てられており、南北の長さは約16m、高さは小路側



玄妙寺門柱及び塀

から1.63mあります。^{たたき}三和土を成型した三和土ブロック^(※1)を積んで造られています。本来、床などにしか用いられない三和土の技法を使って、持ち運びできる大きさ・重さのブロックを作った遠州地方独特のものです。

この門柱及び塀は、数少ない現存する物件であり、その風情を今に伝えるものです。見付の歴史を語る上で重要であるとともに、左官技法^{くし}を駆使した独特な構造の門塀で、当地の建築技術を伝える希少例といえます。再現することが容易でないものとして、国の登録有形文化財建造物に登録されることになりました。



三和土ブロックを積んで造られています

※1 三和土ブロック…赤土や砂利などに消石灰とにがりを混ぜて練った三和土を成型して作ったブロック

3. 穂積家住宅長屋門

穂積家は、代々松尾八王子神社、東八王子神社の神主や旗本秋元氏の代官などを勤めたとされ、現在の当主は15代目です。

穂積家長屋門は、小屋裏より見つかった棟札に明治11年(1878)との記載があります。門の幅は、11mであり、^{よせむねづくり}寄棟造で^{さんがわら}棧瓦^(※2)を葺いています。平面は大きく3室に区画され、中央が通路部分、両側は土間の物置となっています。



穂積家住宅長屋門（正面から）

※2 棧瓦…断面が波型の瓦で、江戸時代以降一般的に見られる、本瓦葺きの平瓦と丸瓦を一体化させた瓦。

外壁は^{しんかべ}真壁^(※3)で、中段から上部は^{しっくい}漆喰で塗られ、下部は^{したみいたばり}下見板張^(※4)とし、正面の西室に^{よりきまど}与力窓^(※5)が設けられており、旧家の格式を伝える長屋門です。明治期に敷地内東側に^{ひきや}曳家し納屋として使われていましたが、昨年、当初建っていた場所の近くに再び曳家し、門口が復原されました。市内に残る数少ない長屋門として、国の登録有形文化財建造物に登録されることになりました。

※3 真壁…柱を露出する壁

※4 下見板張…雨水が入らないように、横板をお互いが少しずつ重なり合うように取り付けられた板壁

※5 与力窓…太い格子を横に取り付けた窓。江戸時代、長屋などの道に面した側につけた。



穂積家住宅長屋門（裏側から）

日本には本来の宗教とは別に、民衆の間で生まれ育っていった神仏があります。こうした民間信仰の第3回は馬頭観音です。

観音菩薩は、現世のご利益がある仏様で、人々のニーズにあわせて十一面観音や千手観音などに、姿も変えることができます。そのうちの1バージョンが馬頭観音です。頭に馬頭を乗せた馬頭観音は、馬のような強い力とスピードで人々を救う、頼もしい仏様であると同時に、一般に優しい顔をしていると言われる観音の中では、珍しく怒った顔をしています。これは、怒りの形相で悪を粉碎するとされています。

こうしたもともとの仏教の教えとは別に、民衆の間では馬頭観音イコール馬の供養、という考えが定着してきたようです。農耕や運搬、軍馬など、さまざまな場面で活躍してくれた馬は、人々にとって宝物であり、家族も同然の大事なパートナーでした。飼っていた馬が死ぬと、供養のために馬頭観音を建てる、といったことが広く行われていたようです。顔も優しい顔のものも多く見られます。

市内でも、岩室や万正寺で馬頭観音をまつたお堂があります。その他にも石仏の馬頭さまが残されていますが、長野県や山梨県に近い、山が多い地域には特に多く見られます。

馬頭観音(気賀)



馬頭観音
(西貝塚)



馬頭観音
(佐久間町)



馬頭観音群
(山梨県韮崎市)

お祭りは終わりましたが、あの興奮をふたたび・・・

見付天神裸祭の記録映像が ホームページからご覧になれます！

見付天神裸祭保存会、見付天神裸祭映像記録作成委員会では、国指定重要無形文化財『見付天神裸祭』の記録映像を作成しました。

市のホームページから、祭りの記録映像を3分21秒にまとめたダイジェスト版をご覧になることができます（YouTubeにリンク）。練りや鬼おどりの様子、深夜、街のあかりが消された闇の中で行われる御輿の渡御の様子など、なかなか見ることができない貴重な映像です。



↑ 鬼おどり

夜の東海道を走る→
（赤外線撮影）



↑ 御輿霊振り

ここを見て！

市ホームページ

磐田のみどころ

↓
文化財

↓
見付天神裸祭

↓
見付天神裸祭記録映像

コラム

瓜(うり)

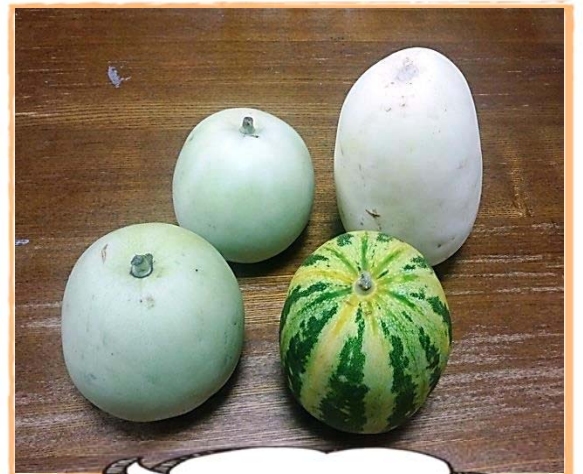
大村 至広

残暑が厳しい。アイスやかき氷もおいしいが、この時期に自分が好きなのは瓜である。冷蔵庫でよく冷やしたものはおいしい。スーパーの地場産品のところに並んでいるとついつい手が伸びる。

子供のころからよく食べた。マクワウリやキンコウリ、プリンスメロンなど種類はいろいろあるが、単に瓜と呼んでいた。

今ほど甘くなく、冷やすことも難しかったであろうが、昔から食べられていたことは、古代の遺跡から種が出土することでよく分かる。

大学生だった時、住んでいた長久手のスーパーで細長い瓜を買って食べたが…。歯ごたえは良いが全く甘くない。瓜は瓜でも白瓜などの類であり、漬物などにして食べるべきものであった。味のとおり苦い失敗であった。



いろいろな瓜があります

文化財課夏企画展および歴史文書館企画展、福田町史展示会には、多くの方にお越しいただきました。また、たくさんの質問やアンケートへの回答をいただきました。ありがとうございました。

発行：磐田市教育委員会文化財課
（磐田市埋蔵文化財センター）
住所：〒438-0086 磐田市見付 3678-1
電話：0538-32-9699
FAX：0538-32-9764
Mail：bunkazai@city.iwata.lg.jp

